■GGG+フォーラム2019　@TICAD7　女性と子どもにやさしいフォーラム

■2019年8月29日（パシフィコ横浜）

■参加者

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（Global Fund）、Gaviワクチンアライアンス、グローバル・ヘルス技術振興基金（GHIT）、国会議員、内閣官房、外務省、厚生労働省、独立行政法人国際協力機構（JICA）、各国代表、国際機関、民間企業、アカデミア、ポリオ患者等

■内容

依然として結核の死亡率は高く、子どもたちが結核で命を失っている。薬剤耐性のせいで上手く治療ができないでいる。今回のフォーラムでは「結核」のセッションが設けられた。①栄研化学の結核LAMPは既にWHOの推奨を取得した。ケニア・ナイロビのヘルスセンターに導入したところ、既存の顕微鏡検査と比較して良好な結果が得られた②タウンズは簡便な結核検査試薬であるTB-Neoを持っており、今後は、確定診断に要する時間の短縮を図る③大塚製薬の抗結核薬デラマニドはWHOの必須医薬品リストにも掲載された。同社による別の抗結核薬であるOPCが、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団の支援の下、臨床試験に入っている④ジョンソン＆ジョンソンのベダキリンは129カ国に提供されている―と、企業から各々報告があった。しかし、新薬開発には多額の費用がかかる上、サービスデリバリー・スケールアップにおいても課題をかかえているため、企業はこれらの一連のプロセスを通じて官民連携による支援を求めた。